



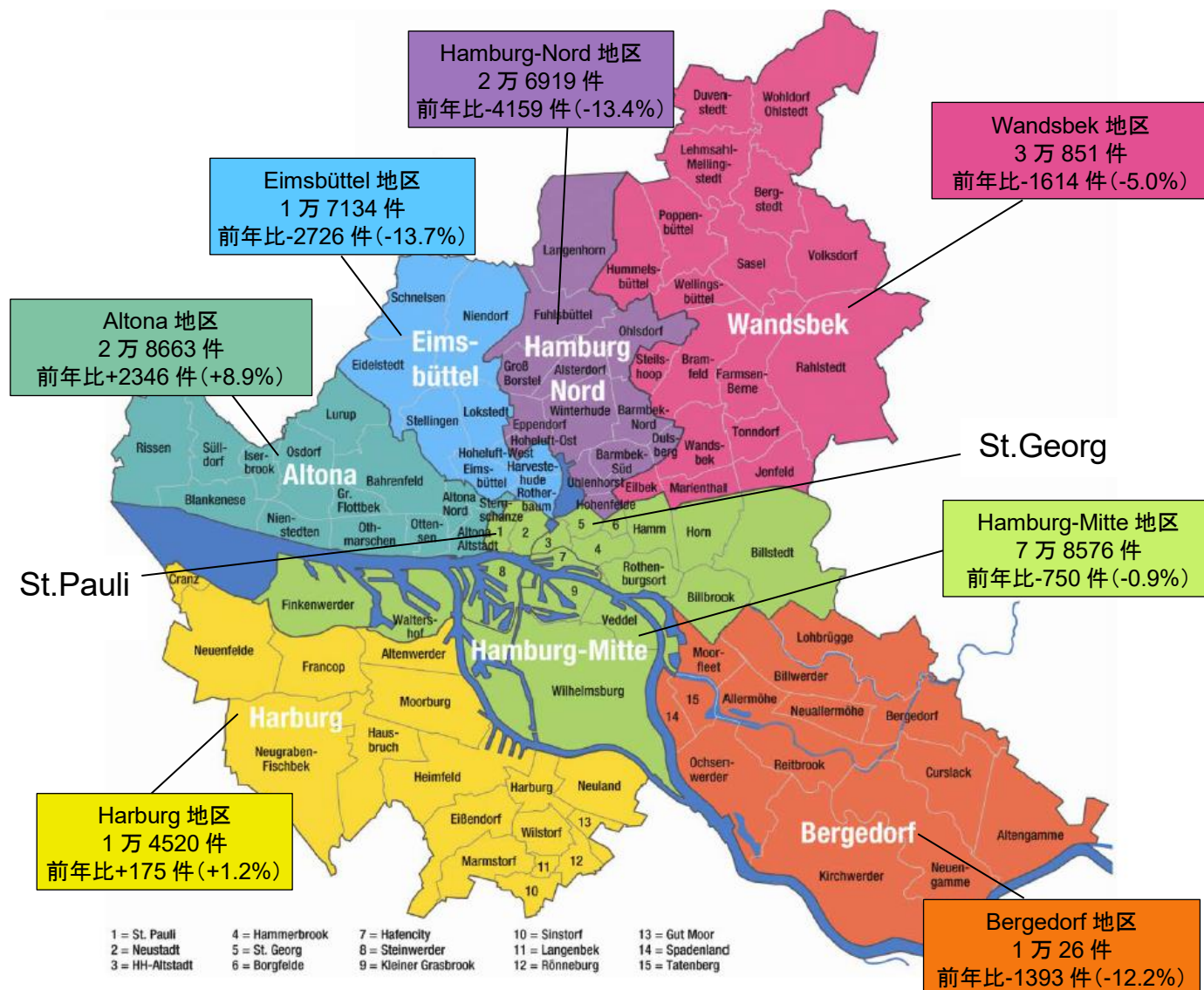
(2) 日照時間が長くなり、日が暮れるとすぐに深夜の時間帯となります。深夜の一人歩きは、路上強盗に遭うリスクが高まります。昨年、ハンブルク州では邦人の路上強盗の被害が2件発生していますので十分注意してください。

<路上強盗対策>

- 深夜の一人歩きをしない。
- 帰宅時間が深夜になる場合は、タクシーを利用する。
- 「複数人」で「明るい時間帯」に「明るく・人通りのある場所」を移動する。



3 ハンブルク州犯罪発生マップ (2018年ハンブルク州警察犯罪統計より)



犯罪多発地区は、中央駅東側の St.Georg と繁華街のある St.Pauli です。2018年中に St.Georg で2万47件、St.Pauli で1万8790件もの犯罪が発生しています。

## 4 テロ情勢

- (1) ドイツ国内にはテロの潜在的な脅威が存在しており、本年1月30日にシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州(Ditmarschen 郡)において、ドイツ国内でテロ攻撃を計画した容疑で3名が逮捕され、また、本年5月20日にもシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州(Neumünster)において、過去にISにテロ資金を供与した容疑で4名が逮捕されるなど、本年に入ってから治安当局によるテロ関連事件の摘発が相次いでおり、注意が必要です。
- (2) テロの発生を予測することは困難ですが、普段の心がけや心構えによって、テロに巻き込まれるリスクを軽減し、万が一テロに巻き込まれた場合でも被害を最小限に抑えることができます。

### <リスク軽減>

- 外務省海外安全ホームページや渡航先の日本大使館又は総領事館のホームページ、テレビやラジオ、新聞等の報道に注意を払い、渡航先の安全情報を収集し、テロの危険のある国・場所・期間・時間等を避けて行動する。
- テロの標的となりやすい場所を理解する。  
記念日等のイベント会場、観光施設、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケットなど人が多く集まる施設、教会やモスク等の宗教関連施設、公共交通機関や軍・警察等の政府関係施設等
- 渡航先で不測の事態が発生した場合に、最新情報の入手が可能となるように、在留届の提出または「たびレジ」の登録を必ず行う。

### <テロに対する心構え>

- テレビやラジオ、新聞等の報道に注意を払い、最新の治安・テロ情勢等の関連情報の収集に努める。
- 不測の事態の発生を念頭に会場や施設内では避難経路等をあらかじめ確認する。
- 不審な人物や状況を察知したら、速やかにその場を離れ、自身の安全確保を最優先する。
- 爆発音や銃撃音を聞いたら、その場に伏せる。または頑丈なものの陰に隠れる。
- 周囲の状況を確認し、可能であれば、低い姿勢で銃撃音等のする現場から速やかに離れ、安全な場所に避難する。

## 5 在留届の提出、「たびレジ」の登録のお願い

- (1) 海外に3か月以上滞在される方は、旅券法第16条によりその地域を管轄する日本大使館又は総領事館に速やかに「在留届」を提出することが義務付けられています。住所が決まり次第「在留届」の提出をお願いいたします。緊急事態発生時には、提出された「在留届」をもとに、日本大使館又は総領事館が安否確認や支援活動等を行います。
- (2) 海外に3か月未満滞在する方は、日本大使館又は総領事館の緊急連絡や安否確認を受けられるようにするため、「たびレジ」の登録を忘れずに行ってください。
- (3) ドイツ国外にご旅行の際にも、旅行先について「たびレジ」の登録を行ってください。
  - 在留届の提出と「たびレジ」の登録はオンラインでご利用いただけます。

QR コード



URL : <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html>